

行雲流水

No. 3 2 令和3年4月21日発行

リーダーは、みんなで支え、育てる

校長 寒河江 正人

生徒会活動の「**主役**」は、生徒自身一人ひとりである。

大人（私たち教職員）は、「**主役**」である生徒が「**リーダーとして**」、「**フォロアーとして**」、活躍するための「**黒子（くろこ）**」に徹する。

※黒子（くろこともいう）……歌舞伎などで表に出ないで裏で主役を支える立場の黒衣の人を指す。
生徒一人ひとりのもつ「眠っている力・潜在的な能力」を決して侮ってはならない。
もっと生徒の「可能性・伸びしろ」を信じて任せ、試行錯誤させなければ、人は育たぬ。

4月16日（金）の「**生徒会役員任命式**」には「校長先生のお話」が設けてあった。

しかし、担当の高橋匠さんには「ご辞退」申し上げた。

なぜなら、**生徒会長**の藤原康太くんの「**決意表明**」の場があったからである。

リーダーが全校生徒（**フォロアー**）に「**決意表明**」した後に「校長のお話」は**無粋**である。
物事の有り様には、「**静かな余白**」が必要である。

リーダーの「**決意表明**」の「**思い**」の後には「**静かな余韻**」があれば、**それで十分**である。

本日の「**運動会集会**」にも「校長先生のお話」が設けてある。

依頼に来てくれた実行委員の九十理央菜さんと後藤はる香さんにも事情を説明した。

実行委員長の菅原悠世くんによる「**あいさつ・呼びかけの場**」が設けてあるからだ。

運動会の開催に向けた生徒の**リーダー**が全校生徒（**フォロアー**）に呼びかけるのだから、
「校長のお話」は**無粋**である。実行委員長の「**熱い思い**」を胸に刻んで欲しい。

明日23日（金）の「**生徒総会**」も、同様である。

「**生徒の、生徒による、生徒のための、生徒総会**」には、**生徒会長**の藤原康太くんによる
「**リーダーとしてのあいさつ**」と「**話し合った後の振り返り（フォロアーへの価値付け）**」
をするよう、藤原康太くんにお伝えした。

話し合いの一部始終を**生徒会長**がしっかりと見取り、「どういうところがよかったのか」、
「どういうところがもっとよくなってほしいのか」、生徒会長が「感じたこと・考えたこと」
を全校生徒（**フォロアー**）に語ることとした。

「最初からのリーダー」は、いない。

「選んだフォロアーの責任」において、みんなで支え、創り上げるのが「**生徒会**」である。